

本資料は3月4日にロンドンで
発表されたメディア・リリース
の翻訳版です。

2015年3月4日

クレディ・スイス 第7回年次ヘッジファンド投資家動向調査の結果を発表

ロンドン、2015年3月4日 - クレディ・スイスは本日第7回目となる年次ヘッジファンド投資家動向調査の結果を発表しました。今回は「投資対象拡大の道しるべ」と題し、以下のトピックを含む多くの分析を実施いたしました。合計で378の機関投資家から回答を頂きましたが、回答頂いた投資家のヘッジファンド投資額は総計1.13兆ドル（約135兆円、1ドル=120円換算、以下同様）に上ります。

- 業界における主なトレンドと今後の予想
- ヘッジファンド業界の成長とパフォーマンスについての予想
- 投資家の戦略別選好と資産配分計画について

クレディ・スイスのマネージング・ディレクターでキャピタル・サービス・グループのグローバル責任者であるロバート・レオナルドは次のように述べています。

「機関投資家は昨年と同時期と比較してヘッジファンドへの資産配分について前向きなようです。これは、主としてヘッジファンドが広く分散されたポートフォリオにおいて低ボラティリティで無相関のリターンを獲得する能力があることによります。」

「本調査では、投資家が今年投資機会がどこにあると考えているかについて価値ある洞察も提供しています。市場ボラティリティが再上昇する中、投資家はエネルギーや商品市場に加え、再びグローバル・マクロやCTAに注目し始めています。こうした動きは、これまで選好されていたイベント・ドリブンや株式ロング・ショートなどに加えたものとなっています。」

本調査は、クレディ・スイスのヘッジファンド・キャピタル・サービス・グループが実施したもので、当該グループは、年金、財団、コンサルタント、ファミリー・オフィス、ファンド・オブ・ヘッジファンドを含む、業界でも最も幅広い投資家をカバーしているグループの一つで、今回の調査でも世界中の全ての地域から回答を得ています。

本調査の主なポイントは以下のようになっています:

- ヘッジファンド業界全般の成長に関するセンチメントは概ねプラスで、投資家は2015年にヘッジファンド業界の運用受託資産は**14.4%伸びる**と予想しています。これは、昨年の12%成長予想を上回るもので、仮にこの予想が正しいとすると、ヘッジファンド業界の運用受託資産は史上はじめて3兆ドル（360兆円）を上回ることとなります。
- **グローバル・マクロが2015年に最も選好される投資戦略にランクされました**（32%のネット需要超）。過去数年間は他の幾つかの戦略より選好度合いは低い水準にとどまり

ましたが、今回はトップとなりました。中央銀行による金融政策における違いやギリシャ債務問題、地域経済成長の不確実性などのさまざまなマクロ関連要因を投資家は考慮しているようです。

- 2015年に潜在的資産配分先として好まれている他の戦略としては、26%のネット需要超となった**イベント・ドリブン**（第2位、しかしネット需要の水準は昨年1位時より大きく減少）とネット24%の需要超となった**CTA/マネージド・フューチャーズ**（第3位、昨年は最下位）があります。
- 投資家は世界中のエネルギー市場における価格の歪みが投資機会をもたらすと考えているため、**商品及び天然資源**関連のファンドも昨年の調査から大きく上昇しました。
- ヘッジファンドを選ぶ際に最重視する要因について投資家に調査したところ、**ネット・リターン**との回答が圧倒的に多く、次いで、**低相関とボラティリティの低減**があげられました。一方で、新しいファンドを選ぶ際に最重視する3つの要因について尋ねたところ、驚くことに70%近くの投資家が**手数料**を上げませんでした。これは、機関投資家が現在の業界の手数料について概ね受け入れていることの表れかもしれません。
- 地域別選好については、**先進欧州諸国**（29%のネット需要超）は昨年から減少しましたが、全般的な需要は強いままでした。次いで、**グローバル戦略とアジア・パシフィック**（共に28%のネット需要超）が僅差で続きました。**北米**も22%のネット需要超と高い需要が見られました。
- 半分以上（53%）の投資家が、運用受託資産で**2.5億ドルから10億ドル（300億円から1,200億円）**のファンドへの資産配分を最も選好すると回答しました。これは、投資家が運用キャパシティの制約がまだ無いファンドや、相対的に小さな投資機会でメリットを得るべく柔軟性をもったファンドへの投資に努めていることによるものと思われます。
- **投資家のUCITS**（日本語訳注：EUの法律に従って設立・運用されているファンドのこと）への**需要は強固な状態が続いています**。30%の投資家が配分を据え置くか増加させると回答しています。こうした需要は 欧州地域における個人投資家向けファンド販売業者から継続的にもたらされています。

以上

クレディ・スイスについて

クレディ・スイスは、世界有数の銀行として、プライベート・バンキング、インベストメント・バンキング、アセット・マネジメント事業を世界中で展開しています。アドバイザリー・サービス、包括的なソリューション、革新的な商品を、世界中の法人および富裕層個人顧客、またスイス国内の一般個人顧客に提供しています。クレディ・スイスは、世界50ヶ国以上に拠点を持ち、約45,800人の従業員を有しています。クレディ・スイスの本拠地はチューリッヒで、世界各地にある複数の事業法人で構成されています。親会社クレディ・スイス・グループAGの株式（CSGN）はスイスおよび米国預託証券（CS）としてニューヨークで上場しています。日本語サイトは、<https://www.credit-suisse.com/jp/aboutus/ja/index.jsp>、グローバルサイトは、www.credit-suisse.com

クレディ・スイス・プライム・サービスについて

クレディ・スイスのプライム・サービス部門では、ヘッジファンドや機関投資会社のニーズに合致した卓越したファイナンス及びオペレーションに関連したサービスを提供します。これらには、新たに運用を始める際に求められる各種サービスや投資対象商品へのアクセス、強固な顧客サービス、ファイナンス、投資家へのアクセス、リスク管理、貸付を含みます。プライム・サービス部門では、クレディ・スイスのインベストメント・バンキング、プライベート・バンキング及びアセット・マネジメントの各々の強みをお客様に提供します。また、ビジネス・パートナーとして、アイデアの実現に至るまでのギャップを埋めるべく業務を遂行しており、オルタナティブと伝統的資産運用の双方でお客様に選ばれるサービス・プロバイダーになるべく、コミットしています。クレディ・スイス・キャピタル・サービス・グループは、プライム・サービス部門を構成する一部であり、ヘッジファンド・マネージャーに対して、ヘッジファンドに資金を配分する様々な機関投資家（ファンド・オブ・ヘッジファンズ、ファミリー・オフィス、プライベート・バンク、財団、公的年金、企業年金を含みます）をご紹介します業務を担っています。